

平成27年度 第3回津山市地域創生推進会議 意見提案

委員 中心部に対する施策は盛り込まれているが、周辺部についての施策が少ないのでは。周辺部を含めた一体化の考え方をどのように考えているのか。

事務局 周辺部を含む広域観光やアウトドア施設の活用なども施策に盛り込んでおり、特に小さな拠点、旧阿波小の跡地利活用など、全市として人口の減少に歯止めをかけ、人口構造の若返りに取り組んでいくものとしている。

委員 地元産業の雇用の支援が大切だと思う。その中で、上位層の企業が雇用・税収の高いウエイトを占めている。これも津山の特徴だと思う。個々の現状認識や試算がもう少し必要なのではないかと。例えば、電子部品・デバイスなどは、高い出荷額となっているが、大手1社の出荷額であり、津山から出たければこの数値は大きく変化する。こういった企業への支援も必要なのではないかと。

また、農業関係では、高付加価値化による農業に取り組むとあるが、数値目標は耕作面積というのはどうなのか。付加価値の高い農業を目指すのであれば、耕作面積が小さくても出荷額が多ければいいのでは。それが目指すべき指標ではないのか。

就業の助成等は目新しい事業だと思う。

効果的な情報発信では、津山のまちをどうやって情報発信を実施して行くのかを考えないといけないと思う。

美作国建国1300年で美作での取り組みを行ってきたが、広域連携の観点では、1市5町の津山圏域地域創生協議会で定住自立圏構想をめざすとあるが、人口5万人以上のまちでないと手を挙げることができず、津山市が手を上げないと近隣では手をあげられない。一方、国では人口20万人でひとつの線を引いており、美作の国で考えないと20万という数字にならない。1市5町だけでは20万にならない。そうした中で、今は具体的でなくても、地方創生の夢を語る場であれば、美作の国での広域連携について、戦略に盛り込む必要があるのでは。

事務局 地場産業の育成に関しましては、この総合戦略でもしごとの創生が重要という観点で、基本目標が多くのウエイトを占めている。津山市は2月に成長戦略を策定し、高付加価値化と地産外商を進め、地域外から外貨を稼ぐということで、津山市の強みを活かして、好循環を目指すという考えを示し、総合戦略(案)でもその観点で示させていただいている。その中で、農林業と製造業は基盤産業として、企業誘致とともに人材育成支援や設備投資支援

を通して地元企業の支援を図ることで、雇用支援や企業留置についても取組んで行きたい。

効果的な情報発信では、津山市のあらゆる情報媒体を活用するとともに、ディステーションキャンペーン等の取組みも活用しながら津山市の認知度を上げていくこととしている。

また、農業関係の数値目標として記載の耕作面積では、本市は中山間地域でもあり、耕地面積の減少について、施策を通して少しでも現状維持をしたいという思いが担当課にあり、こういった目標数値を設定している。実施する取組みについては、具体的な記載をしており御理解いただきたい。

広域的な取組みの件については、観光面では美観連等の取組について、広域観光連携の視点について盛込んでいる。広域連携の取組については、1市5町での取組みとして、津山圏域地域創生協議会を中心に定住自立圏形成に向けた取組みを盛込んでいる。

美作市、真庭市、新庄村さんについては、美作観光連盟には加入しているが、広域連携については、まだ具体的な話がないということで、まずは広域事務組合を形成し、文化、経済、通勤圏、生活機能で結びつきの深い1市5町での定住自立圏への取組を進め、その後他市町との具体的な連携施策があれば、大きな圏域を形成することも可能だと考えますので御理解いただきたい。

委員 農業の数値目標については、美しい中山間地域を維持したいという目的で面積の維持ということなのであるかもしれないが、付加価値を求めるのであれば、戦略に記載の和牛のブランド化というのは、まさに付加価値の向上だと思う。もう少し違う数値目標を設定しても良いのでは。何れにしてもこの推進会議は、5年間この数値目標がきちんとできているのかを確認して行くために良い数値目標の設定が大切だと思う。

委員 奨励金の拡充を図るとあるが、地場企業にも支援するのか。誘致企業だけでなく、地場企業の支援も必要と思う。また、ワーク・ライフ・バランスのKPIでは、認定事業所数の増加が目標となっているが、ワーク・ライフ・バランスを実感できる人がどれだけ増えたかが重要だと思うので、企業数ではなく、人数を目標とするほうが良いのでは。

委員 ワーク・ライフ・バランスについては、今回0からの出発ということであるので、どれだけ津山市の事業者が認識しているのかという問題もある。これから事業所数とともに人員も含めると考えればいいのではないかと。

また、岡山県では、耕地面積でなく、生産額で目標やKPIを設定しているので、もう少しわかりやすいものを検討していただければと思う。

委員 何か特色あるユニークな施策は盛り込まれているのか。

基本目標3のKPIが全国学力状況調査で岡山県平均を上回るというのはいか
かなものか。私は、岡山県は全国でも悪く、津山はそのなかでも下位にある
と伺っているが、何位ぐらいなのか。

また、学生力で地域を活性化させる記述があるが、教育現場としても協力
してやりたいと思う。

事務局

ユニークな施策ということであるが、先行型の交付金や単独の市費で、1
8歳の崖への対策や移住・定住施策については、他都市に負けてないものを
実施したいと考えている。

また、産業分野では、本年4月に設置した産業支援センターがある。統括
マネージャーを全国公募し、企業窓口を一本化したなど、先進的な取組であ
ると思う。

学力の順位だが、岡山県は全国でも下位で、津山市は其中でも下から数
えたほうが早い状況と認識している。今回記載の目標は、教育振興基本計画
に記載した数値目標であり、この目標と合わせている。

委員

学力については、津山市は昔から、洋学など学問が盛んな土地でもあり、
緒方洪庵、箕作阮甫などの有名な偉人を輩出した土地でもある。戦略では、
つまづきの解消など、底上げしか感じられない。津山中学校もできたし、世
界に羽ばたくことのできる質の高い教育の実施等を盛込んで取組みを進めて
ほしい。

事務局

そういった視点も盛り込んでいきたい。

委員

この戦略を今後どのように浸透させ、実行していくのか。市民一人ひとり
が動かないとできないことだと思う。移住については、今は、島根が多いが、
移住した方の意見をきかないと有効な施策ができないのではないかと。

事務局

都市部での移住相談会に出向いている。相談者は相対的に定年前の方、フ
ァミリー層の方が多い。その中で、教育・病院についての相談を多く受ける
が、津山市は、保育から大学まで教育環境も整っており、総合病院を含む医
療機関も多いので、移住希望者も安心されている。また、津山市は市街地、
郊外、農村部と多様な市域で形成されているため、移住者の求めるライフス
タイルにあった移住地が選択できる点が利点と考える。

人口ビジョンでも示しているが、市民・事業所・教育機関・行政が互いに
協力しオール津山での取組が必要である。戦略策定について市ホームページ
で公表するとともに、産・学・官・金・労・言・公募市民の代表である皆様
の協力を得て総合戦略の取組みを浸透させていきたい。

また、今後、この会議は毎年開いて、事業のKPIを検証しながら、より効果
的な事業になるように、皆様のご協力を得たい。その折々の議論等につい
てもホームページで公開し、周知を図っていきたくと考えている。

委員 私はこの戦略の中の目標の一つである、『津山市が好きと感じる人が85%以上』という目標に向かって、オール津山で取組んで行けたらと考えている。この会議には、津山市の各界の代表が集まっているので、我々もこの戦略を広めていきたい。

事務局 総合戦略は作るだけでなく、作成する意図を理解してほしいと思っている。市民のみなさまにこの思いを共有していただきたい。なぜこういう施策をするのかを理解していただき、さらに、自分たちがどの部分を担うかを理解していただきたいという思いがある。この戦略は機会あるごとに周知をしていきたい。

委員 全国では、市民参画条例を制定しているまちもある。津山市も市民のそういう動きがほしい。市民条例がほしいと言える市民が必要だ。学力問題についても、県は全国10位を掲げている。山陽新聞にも教科ごとに順位が掲載されている。なぜ、具体的な数字を記載しないのか。

事務局 市民参画のまちづくりに関する条例制定については、津山市においても森づくり条例、環境基本条例などの理念条例を策定し、市民、事業者、行政の責務等をうたっている条例を制定している。近隣では、日本酒で乾杯する条例とか色々あるが、そういった理念条例を今後作っていきたいと思っている。議会でも観光立市宣言もしている。

また、学力の問題であるが、現在、岡山県が全国10位を目標に掲げているので、津山市は、その中の真ん中より上ということで、全国的にもかなり上の目標となる。

委員 広域連携だが、経済界は県北一体で動いている。岡山市との南北での軸もわかるが、今後県北一体で取組むということが必要でないか。

事務局 連携については、3つの視点で書き込んでいる。一つ目は美作観光連盟による美作の国での連携、次に現在進んでいる1市5町での連携、そして岡山市との連携である。基本は1市5町での連携であり、現在、ごみ・消防・し尿等で連携しており、具体的な動きがあるものを記載している。ご理解をいただきたいと思います。

委員 ハローワークは既に、美作・真庭も一緒にやっている。教育も美作学区で動いている。県北で考えるということも必要ではないか。将来も見据えて動くということが必要ではないか。産業支援センターに関わる工業会も県北一体で動いている。県北での取組みも盛り込んでほしい。

委員 広域的な取組みでとしては、美作・真庭も含めた方が良いと思う。

また、防犯カメラ設置台数がKPIに掲げられているが、他市ではプライバシーの観点から防犯カメラ設置に反対しているところもあるときいている。津山市ではどんなところに設置するのか。

事務局 防犯カメラについては、平成27年度から県の制度が創設され、本市においても補助制度を作り、町内会からの要望により補助しているもので、町内会が場所の選定を行っている。また、学校や公民館に市が順次設置もしている。

また、先ほどいただいた農業の数値目標、広域連携の基本方向に県北地域での連携等の記載については、今後協議をしながら検討していきたい。

委員 経済情勢が厳しい中、経営者と従業員の関係もあり、ワーク・ライフ・バランスの問題も取り方がいろいろあるが、総合戦略を実行するうえで、労働団体との関係も重視していただき、今後も関わっていきたいと考えている。よろしく願いしたい。

委員 各委員さんから、前向きな発言があったが、今後5年間この戦略に沿って、力を合わせてやっていきたい。

また、毎年、KPIの検証をしてより良い津山を目指してやっていきたいと考えている。

事務局 指摘のあった3点については、会長と協議して、最終案とさせていただきたいと思っている。御意見をいろいろありがとうございました。

委員 これで終了といたします。お疲れ様でした。

今回までの御意見を踏まえて津山市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定を行います。